

授業科目名	教育実習事前事後指導（中・高）(2100407)		
時間割名	教育実習事前事後指導（中・高）(14116)		
時間割担当	正木友則		
実施期	通年	単位数	1 必修 選択
曜日・時限	月・4		

授業の目標・概要

事前：教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行うことを目的とする。各自が実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の子ども観や授業への考え方を深める。また、実習に対する不安を解消する過程を通して学生の学習意欲の充実も図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされるマナーをも身に付けるものである。

事後：報告書の作成と体験発表を行う。

学習の到達目標

教育実習に臨むにあたり、これまでの学習を踏まえつつ、教職を志す者としての基本的なマナーを理解し、より実践的で具体的な問題（学級活動や課外活動）について理解を深める（第1回～5回）。そして、各教科の授業づくりから実践、授業後の振り返りを通して、授業力の向上の要点を理解する（第6回～13回）

実習を通して学んだことと、実習前に学んだことを関係づけることができる（第14回～15回）

授業方法・形式

実習の事前指導

教育実習の意義・目標・方法及び実習の準備・心得を学び、実習における各自の課題などを設定する。毎週1回事前指導を13回行う。そのうち6回は、実習生全員で「実習の手引き」をもとに、講義形式で学ぶ。実際の学習の規律など学級運営の方法と専門教科の指導の特徴を学ぶ。残り7回は、10人程度の少人数クラスに分かれて、実習観察ポイントや記録方法や指導案作成を行い、模擬授業を通して学ぶ。

実習の事後指導

実習後の指導は、2回行う。実習体験を振り返らせ、実習中に会った問題や課題について、記録をまとめる。記録は各自の実習ノートのとまとめ、全体における発表・討議の資料作りとする。これを通して実践への理解を深め、実習体験の省察を通して、自己の課題を確認する。さらに、実習評価票に基づいて担当教員と面談を行い、それをもとに4年次後期の教職実践演習における個々の目標を設定する。

授業計画

事前指導

- 第1回 教育実習の意義について（「実習の手引き」使用）
- 第2回 教員と生徒の発達段階に応じた人間関係と実習を成功させる準備と心得
- 第3回 実習ノートの記録方法（「実習の手引き」「実習ノート」使用）
- 第4回 学校経営と学年経営と学級経営の方針とねらい、教職員の校務分掌について
- 第5回 生徒の学力格差への配慮や、特別支援を要する生徒への配慮
- 第6回 専門教科の指導の特徴について
- 第7回 指導授業の方法と指導案作成の具体的方法と模擬授業とその後の討議
- 第8回 指導授業の方法と指導案作成の具体的方法と模擬授業とその後の討議
- 第9回 指導授業の方法と指導案作成の具体的方法と模擬授業とその後の討議
- 第10回 指導授業の方法と指導案作成の具体的方法と模擬授業とその後の討議
- 第11回 指導授業の方法と指導案作成の具体的方法と模擬授業とその後の討議
- 第12回 指導授業の方法と指導案作成の具体的方法と模擬授業とその後の討議
- 第13回 指導授業の方法と指導案作成の具体的方法と模擬授業とその後の討議

事後指導

- 第14回 実習の振り返り 実習経験と今後の課題発表と討議
- 第15回 実習の振り返り 実習経験と今後の課題発表と討議

成績評価の基準

授業毎に行う小レポート、最終レポートなどをもとに、総合的に評価する。

準備学習・復習及び授

- ・授業時に出された課題
- ・模擬授業を行うための教材研究、授業づくり
- ・模擬授業を行うための練習

履修上のアドバイス及

- ・教職を志す者として基本的なマナーを守ること

教材・教科書

特になし 必要に応じて資料を配布する

参考書

特になし 必要に応じて授業で紹介する